

## 基本情報

授業科目名	科学技術リテラシー論I
授業科目名(英語)	Science Literacy-A Course of Lectures I
時間割コード	08F1303
開講所属	教養学部
時限	月(Mon)6 [18:45-20:30]
ターム・学期	S1S2 (2016/04/01-2016/09/20)
単位数	2.0
対象学年	
他学部履修	可
主担当教員	吉良 貴之
備考	
教室	1号館 120教室
教室(英語)	
授業使用言語	日本語
優評価「上位3割」適用科目	適用しない
<a href="#">後期教養教育科目</a>	該当科目である。
全学交換留学生 (USTEP) 履修	可 (Y)

## 担当教員一覧

教員名	教員所属
吉良 貴之 (KIRA Takayuki)	教養学部

※並び順

- 1 番目：主担当教員
- 2 番目以降：五十音順

## 詳細情報

講義題目 (Course Title)	〈法と科学技術〉の現代的問題
授業の目標・概要 (Course Objectives/Overview)	科学技術に関する法政策や裁判例を素材として取り上げ、科学技術と社会の関係を特に法的・政治的側面から捉えることを目指す。法的思考と科学的思考の特徴を比較しながら学ぶことにより、科学者・技術者と法律家・政策担当者とのあいだで起こりがちなコミュニケーション・ギャップの原因を探り、望ましい相互関係のあり方や、そのために必要な法制度設計などを考えていく。また、授業全体として先端科学技術問題を通じた「法哲学」入門になるようにも構成する。
授業のキーワード (Keywords)	[日本語用] 科学技術と法、 科学的不確実性、 リスク管理、 法的思考、 法政策学、 法哲学、 世界正義 (global justice)、 世代間正義、 研究倫理、 技術倫理 [外国語用]

授業計画 (Schedule)	(1-3) 比較法思想的トピックをいくつか取り上げ、法的思考の基本的なあり方を理解する。(4-7) 科学技術の先端的な問題が争点になった訴訟を取り上げ、判例分析などを通じて法的思考と科学的思考の共通点や相違点を理解する。(8-11) 科学技術の規律 (regulation) に関わる法政策のあり方について、研究倫理・技術倫理、生殖技術と生命倫理、環境倫理と世界正義・世代間正義、といった原理的な観点から理解を深める。(12-13) 各国の科学技術法政策を取り上げ、科学者・技術者と法律家・政治家・政策担当者の望ましい協働のあり方を探る。
授業の方法 (Teaching Methods)	基本的に講義によって進めるが、受講者の参加状況により、ディスカッション時間を適宜設けるようにする。無理に発言する必要はないが、社会問題について原理的に議論する楽しみを味わってほしいと思う。
成績評価方法 (Method of Evaluation)	期末レポートによって評価する(詳細は授業中に指示する)。積極的に授業参加した者については一定の範囲で加点を行う。
教科書 (Required Textbook)	特定の教科書は指定しない。毎回、資料配布またはスライド上映を行う。
参考書 (Reference Books)	1) シーラ・ジャサノフ(渡辺千原・吉良貴之監訳)『法廷に立つ科学』(勁草書房、2015年) 2) JST-RISTEX研究プロジェクト『法と科学のハンドブック』(2012年) <a href="http://www.law-science.org/top.html">http://www.law-science.org/top.html</a> (PDF配布) ほか、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意 (Notes on Taking the Course)	担当者は「法哲学」を専門とし、講義でも法的・哲学的問題を多く扱うが、法学・政治学、哲学などの知識は特に前提としない。初学者にも配慮した構成とする。
関連ホームページ (Course-Related Websites)	<a href="http://jj57010.web.fc2.com/">http://jj57010.web.fc2.com/</a>
その他 (Others)	担当者のホームページには講義関連情報を適宜アップデートするので、毎週チェックし、予習・復習課題等に十分に取り組むこと。質問等は講義中、その前後、またはメールやSNSで受け付ける。
メールアドレス (E-mail Address)	jj57010@gmail.com
研究室電話番号 (Laboratory room phone no.)	

閉じる